

# IBL REPORT

## 第34期 報告書

平成27年4月1日

▼  
平成28年3月31日

### 株主の皆様へ



#### ごあいさつ

平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。  
今年、遺伝子組換えカイコの繭由来の医薬品原料製造(GMP準拠)に向けたパイロットプラント(群馬県前橋市)を稼働し、遺伝子組換えカイコの大量飼育環境を整え、様々な研究やGMPにおけるバリデーションを行えるようになります。

これもひとえに、株主様をはじめとする、ステークホルダーの皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。

今後、事業基盤である診断・試薬事業をさらに強化し、遺伝子組換えカイコ事業をはじめ、検査事業及び化粧品関連事業を新たな柱に成長させ企業価値の向上に努めて参ります。

ここに、平成28年3月期の報告書をお届けいたします。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 高橋 勉

#### 企業理念

抗体を通じて、世界で難病に苦しむ人々が1日も早く病気を克服し明るく豊かな暮らしを営めるように貢献いたします。

次ページより、当社グループの紹介をしております▶▶▶

### 財務データ

|                       |       | H24.3 | H25.3 | H26.3<br>(連結) | H27.3<br>(連結) | H28.3<br>(連結) |
|-----------------------|-------|-------|-------|---------------|---------------|---------------|
| 売上高                   | (百万円) | 915   | 800   | 670           | 729           | 717           |
| 営業利益(△は損失)            | (百万円) | 23    | 8     | △107          | △181          | △75           |
| 経常利益(△は損失)            | (百万円) | 54    | 80    | △99           | △139          | △81           |
| 親会社株主に帰属する当期純利益(△は損失) | (百万円) | 42    | 153   | △114          | △158          | △31           |
| 1株当たり当期純利益(△は損失)      | (円)   | 6.94  | 24.83 | △17.99        | △24.20        | △4.86         |

※平成24年3月期から平成25年3月期までの2期分は非連結になります。また、同2期分の1株当たり当期純利益につきましては、平成25年10月1日に普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っているため、分割後の数値に修正して記載しております。



株式会社免疫生物研究所  
Immuno-Biological Laboratories Co., Ltd.

証券コード 4570

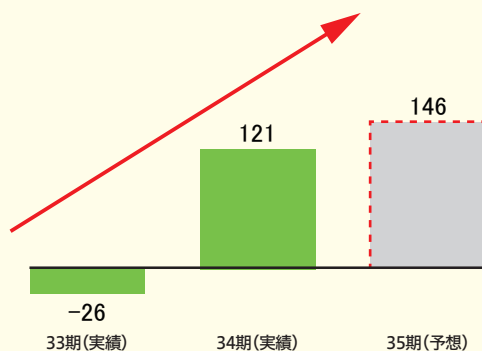
## 【研究用試薬の販売加速】

# 日本および国際学会にて積極的なPR活動を展開

当社は、販売方針の変更や積極的に日本および国際学会に参加し、潜在顧客から直接的にニーズの拾い上げ等、研究用試薬のプロモーション活動を行った結果、自社製品のELISAキット製品の販売数が順調に増加し、34期の診断・試薬事業の営業利益は、大幅に改善し黒字となりました。今後もさらに、日本および国際学会に積極的に参加し着実なPR活動を行い、売上増加および収益性改善に努めて参ります。

## 診断・試薬事業 営業利益推移

(百万円)

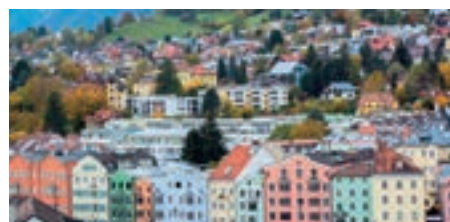


### 2016年度 学会展示スケジュール(予定)

メタボリックシンドローム関連試薬と検査サービス(糖尿病、高血圧、脂質異常症など)を中心に、完全子会社の(株)スカイライト・バイオテック(SLB)および現地代理店との共同学会展示やPR活動を通じて、さらに、強固な経営基盤の構築を目指して参ります。



【5月】(SLBと合同展示)  
第59回 日本糖尿病学会  
京都、日本



【5月】(SLBと合同展示)  
第84回 欧州動脈硬化学会  
インスブルック、オーストリア



【6月】(IBL単独展示)  
第59回 日本腎臓病学会  
横浜、日本



【6月】(米国代理店と共同展示)  
第76回 米国糖尿病学会  
ニューオリンズ、アメリカ



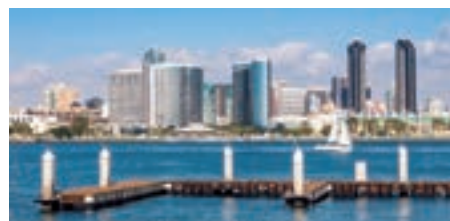
【7月】(IBL-A/SLBと合同展示)  
第68回 米国臨床化学会  
フィラデルフィア、アメリカ



【9月】(欧州代理店と共同展示)  
第52回 欧州糖尿病学会  
ミュンヘン、ドイツ



【10月】(SLBと合同展示) 【12月】(IBL単独展示)  
第37回 日本肥満学会 第35回日本認知症学会  
東京、日本 東京、日本



【11月】(米国代理店と共同展示)  
第46回 ニューロサイエンス  
サンディエゴ、アメリカ

## ネオシルク®ーヒトコラーゲンI フレヴァンシリーズ



「スキンケア商品は毎日使うもの。だから、体に害がない安心なものを使いたい。」というユーザー意識は国内外問わず高まりつつあります。健やかで若々しいお肌を持ち続けたいと願う全ての人々に、安心して毎日使っていただけるように開発されたスキンケア商品が「フレヴァン」です。ネオシルク®ーヒトコラーゲンIは、魚や豚などの異種動物由来と違い、ヒトのアミノ酸組成と同じため、アレルギーや炎症をおこす可能性が低いと言われています。

フレヴァンシリーズの全てのスキンケア製品には、ネオシルク®ーヒトコラーゲンIが配合されています。今後も引き続き、安全なスキンケア製品をお届けすることをお約束します。



## 第34期の主なニュース

### 【診断・試薬事業】

| 単位：千円 | 前期      | 当期      | 増減%   |
|-------|---------|---------|-------|
| 売上高   | 504,917 | 527,623 | 4.5%増 |
| 営業利益  | △26,594 | 121,736 | 赤字⇒黒字 |

(売上高)

- ⇒国内外でEIAキット製品の販売数が伸長
- ⇒BSEキットが安定した収益源
- ⇒マイコプラズマ感染症の診断薬原料の販売が、順調に推移

(営業利益)

- ⇒研究用試薬において、販売方針の変更により粗利益率が向上

### 【遺伝子組換えカイコ事業】

| 単位：千円 | 前期      | 当期       | 増減%    |
|-------|---------|----------|--------|
| 売上高   | 90,519  | 67,433   | 25.5%減 |
| 営業利益  | △44,881 | △142,444 | 赤字増大   |

(売上高)

- ⇒前期にアステラスからの一時金収入があったため減少

(営業利益)

- ⇒積極的に研究開発費へ投資
  - ・人員の採用
  - ・前橋研究所の賃貸費用等
  - ・フィブリノゲン開発費用増

### 【検査事業】

| 単位：千円 | 前期      | 当期      | 増減%   |
|-------|---------|---------|-------|
| 売上高   | 109,977 | 111,756 | 1.6%増 |
| 営業利益  | △38,807 | △20,158 | 赤字減少  |

(売上高)

- ⇒新規顧客獲得キャンペーンや学会出展のプロモーションが奏功  
(診断・試薬事業との協業)
- ⇒血中遊離コリン測定サービスは、製薬企業等から成約獲得

(営業利益)

- ⇒検査作業や業務の効率化を図る

### 【化粧品関連事業】

| 単位：千円 | 前期      | 前期(注) MC除外 | 当期      | 増減%    |
|-------|---------|------------|---------|--------|
| 売上高   | 25,213  | 9,410      | 15,793  | 37.4%減 |
| 営業利益  | △74,923 | △36,216    | △35,447 | 赤字減少   |

(注) 株式会社エムコスメティックス(MC)は、前年度末に連結子会社から除外したため、同社の業績を除外した数値

(売上高)

- ⇒ダイレクトメールや電話によるアウトバウンド等の活動強化

会員数 2,077名(前年度末849名)

- ⇒展示会やセミナー等により集客したお取引先様への販売活動を実施

(営業利益)

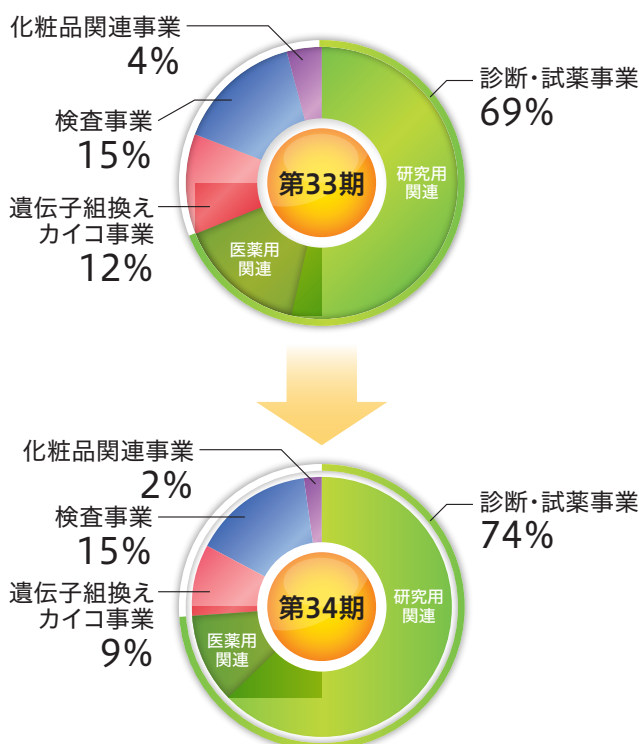
- ⇒高集客率の広告宣伝を選択・集中し業務の効率化を図る

### 業績(連結)

| 単位：千円                | 平成27年<br>3月期<br>(第33期) | 平成28年<br>3月期<br>(第34期) | 前年比    |
|----------------------|------------------------|------------------------|--------|
| 売上高                  | 729,030                | 717,661                | △1.6%  |
| 売上総利益                | 367,085                | 452,029                | +23.1% |
| 営業利益(△損失)            | △181,517               | △75,353                | 赤字減少   |
| 経常利益(△損失)            | △139,084               | △81,797                | 赤字減少   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益(△損失) | △158,480               | △31,898                | 赤字減少   |

営業損失⇒診断・試薬事業において販売契約変更等で収益性が向上  
⇒遺伝子組換えカイコ事業の研究開発や新規パイロットプラント建設のための費用が増加  
経常損失⇒債務消滅益及び為替差損並びに新株発行費用等を計上  
親会社株主に帰属する当期純損失⇒投資有価証券評価損を計上

### セグメント別売上高構成比



## グローバル社会における バイオベンチャーとしての IBLグループの役割



当社の企業理念である「抗体を通じて、世界で難病に苦しむ人々が1日も早く病気を克服し明るく豊かな暮らしを営めるように貢献いたします。」は、1982年に創業以来、34年経った現在も変わることはありません。

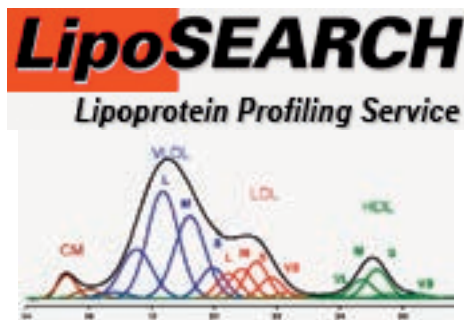
世の中が物質的に豊かになればなるほど、日々の生活習慣が原因で発症するメタボリックシンドローム（高血圧、高血糖、脂質異常症など）関連疾患の患者は、日本国内に限らず国際社会においても増加する一方であり、それらの疾患を対象とした、より優れた診断方法や治療薬の開発へのニーズは高まるばかりです。



また、老化や遺伝性および感染性の疾患、さらに自己免疫疾患など、未だ満たされていない医療ニーズが世の中には数多く存在します。国際社会におけるバイオベンチャー企業としての当社の役割は、より多くの研究機関、医薬関連メーカー、産学機関など、世界中の研究者の皆様に、これらの医療ニーズを満たすために必要な研究ツールとして、高品質な抗体やELISAキットなどの研究用試薬、そして診断薬・医薬原料を供給し続けることであり、微力ながら国際社会の研究現場に貢献していくことにあります。これからも、メタボリックシンドローム、アルツハイマー病、筋ジストロフィー、がん、HIV感染症、難聴・めまい、などの関連要因に対する研究を続けて参ります。



## 最先端のリポタンパク質分析 “LipoSEARCH” を世界に向けて販促強化



リポタンパク質とは、水に溶けにくい疎水性のコレステロールや中性脂肪が、血中をスムーズに流れるために必要な殻のような役割を持つ親水性の球体タンパク質で、動脈硬化など血管イベントリスクに深く関与し、悪玉コレステロールと呼ばれている“LDL”もリポタンパク質のひとつです。

リポタンパク質の粒子サイズや粒子数、血中濃度などを詳細、正確にデータ採取することは、動脈硬化な

どの研究や脂質異常症などの治療薬開発において極めて重要で、当社の連結子会社(株)スカイライト・バイオテックが提供するリポタンパク質分析サービス“LipoSEARCH”は、優位性が高い分析技術です。(国際特許取得済み)

当社グループ間にてリソースやネットワークを共有し、グローバル市場に向けて積極的な販売促進活動を行って参ります。

## 【まもなく建設完了】 医薬品原料製造を目指しGMP対応 のパイロットプラントを建設 (前橋研究所)



遺伝子組換えカイコ技術を用いた医薬品原料製造を目指し、GMP対応のパイロットプラント(前橋研究所)を群馬県前橋市に建設し、早期に研究開発活動を開始いたします。

遺伝子組換えカイコ事業は、2010年に株式会社ネオシルクを完全子会社化して以来、多くの株主の皆様をはじめ、日本全国各地の共同研究先の企業や先生方、および金融機関などお取引頂いている皆様を含めた全ての

ステークホルダーの皆様より多大なご支援を賜りながら、当社独自の遺伝子組換えカイコ技術を用いた「有用タンパク質の生産系の確立」を目指し、日々、研究開発に精進して参りました。

その結果、本技術を用いて有用タンパク質の生産系確立を目指した共同開発プラットフォームも下記のとおり具体化して参りました。

### 遺伝子組換えカイコ生産系共同開発プラットフォーム

アステラス製薬(株)

フィブリノゲン  
(血液凝固剤)

(株)CURED

HIV感染症治療薬  
(抗体医薬品)

(株)ニッピ

ラミン511-E8  
(iPS細胞等の培養足場材)

遺伝子組換えカイコを用いたタンパク質の生産系は、「**抗体医薬品**」の製造に適した、他に類を見ないユニークな特性を有しています。

抗体医薬品の重要な作用機能の一つに**ADCC活性**(Antibody-Dependent-Cellular-Cytotoxicity: 抗体依存性細胞傷害活性)があります。細胞や病原体に抗体が結合すると、その抗体が免疫細胞を呼び寄せ、その抗体が結合している細胞や病原体を殺傷します。この活性をADCC活性と呼びます。この活性が高いほど治療効果を高めることが可能となります。ところが、抗体の構成要素である糖鎖には「**フコース**」という物質が含まれており、このフコースがあるために、ADCC活性を最大限に高めることができないということがわかってきました。よって、抗体医薬品のADCC活性を高めるために、抗体からフコースを除去する、あるいは付かないようにする「**脱フコース**」という処理が必要になります。当社の遺伝子組換えカイコ技術を用いて生産される抗体には、「**もともと糖鎖にフコースが含まれない**」という特徴があるため、脱フコースの処理をする必要もなく、高いADCC活性を有する抗体医薬品製造を実現する大きな可能性を秘めています。



世界ではじめての試みである「遺伝子組換えカイコが産出する繭(まゆ)から、医薬品原料に使用可能なレベルの高品質な有用タンパク質を安定的に生産する」という新たな生産系確立の実現への道は決して平坦なものではありませんが、皆様のご支援のもと、着実に実現に向け、精進して参ります。

# 第34期 定時株主総会の決議ご通知

平成28年6月29日開催の第34期定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

## 報告事項

- 第34期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件  
本件は、上記の内容を報告いたしました。
- 第34期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)計算書類報告の件  
本件は、上記の内容を報告いたしました。

## 決議事項

### 議案▶取締役6名選任の件

原案のとおり、清藤勉、前田雅弘、中川正人、小野寺昭子、富田正浩、福永健司の6氏が選任され就任いたしました。

## 会社の概況

### 会社概要 (平成28年3月31日現在)

|      |  |
|------|--|
| 商号   | 株式会社免疫生物研究所<br>Immuno-Biological Laboratories Co.,Ltd. |
| 設立   | 昭和57年9月9日  |
| 資本金  | 1,946,344,460円   |
| 従業員数 | 45名  |

### 主要な事業所

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 本社・研究所 | 群馬県藤岡市中字東田1091番地1 |
| 三笠研究所  | 北海道三笠市            |

### 子会社

株式会社スカイライト・バイオテック(連結子会社)  
秋田県秋田市(本社・解析センター)、東京都千代田区(東京サービスセンター)

### 役員 (平成28年6月29日現在)

#### 取締役

|         |       |     |       |
|---------|-------|-----|-------|
| 代表取締役社長 | 清藤 勉  | 取締役 | 富田 正浩 |
| 取締役     | 前田 雅弘 | 取締役 | 福永 健司 |
| 取締役     | 中川 正人 |     |       |
| 取締役     | 小野寺昭子 |     |       |

#### 監査役

|       |       |
|-------|-------|
| 常勤監査役 | 宗像 発秋 |
| 監査役   | 石原 靖議 |
| 監査役   | 田山 毅  |

(注)1. 取締役福永健司氏は社外取締役であります。

2. 監査役石原靖議及び田山毅の両氏は、社外監査役であります。

株式会社ネオシルク化粧品(連結子会社)  
群馬県藤岡市(本社)

## 株主メモ

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 証券コード  | 4570                  |
| 単元株式数  | 100株                  |
| 事業年度   | 4月1日～翌年3月31日          |
| 定時株主総会 | 毎年6月                  |
| 基準日    | 定時株主総会 毎年3月31日        |
| 配当の基準日 | 期末配当/3月31日 中間配当/9月30日 |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 株主名簿管理人<br>特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社  |
| 同連絡先                   | 〒137-8081<br>東京都江東区東砂七丁目10番11号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部<br>TEL 0120-232-711(通話料無料)  |
| 公告掲載方法                 | 電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。<br>公告掲載URL<br>( <a href="http://www.ibl-japan.co.jp">http://www.ibl-japan.co.jp</a> ) |



〒375-0005 群馬県藤岡市中字東田1091番地1  
TEL: 0274-22-2889(代表) <http://www.ibl-japan.co.jp>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用し、環境に優しい植物油インキで印刷しています。